

完了後の評価個表

整理番号 21-1

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	大分県
ふりがな 地域(地区)名	あおやま・おおこえ・たばる 青山・大越・田原	事業実施主体	大分県、佐伯市（旧佐伯市、旧直川村、旧宇目町）
関係市町村	佐伯市	管理主体	佐伯市
事業実施期間	H15 ～ H19 （5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>①位置等 佐伯市は大分県南部に位置し、南は宮崎県に接し、東は豊後水道、北は津久見市と境を分かち、西には豊後大野市と接した県内有数の林業地帯である。</p> <p>②森林の状況 当地区（佐伯市）の森林面積は78,952haでそのうち国有林14,353ha、民有林64,362haで森林率87.1%となっている。民有林の人工林率は54.5%で主にスギを中心とした植林がなされておりその蓄積は13,791千m³で、平均蓄積は393m³/haとなっている。</p> <p>③当地区を整備する目的・意義 当地区においてはこれまでに約64,362haの人工林が造成され森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは伐採の次期を迎えている。森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、資源の循環や森林の有する公益的機能の高度発揮に対する国民の期待が高まっていたところである。 当地域の森林整備を効率的に実施するための根幹となる林道等の路網を整備することで山間集落における居住環境の基盤等の整備を図った。</p> <p>（事業概要）</p> <p>○森林基幹道整備 1路線 宇目蒲江線 車道幅員4.0m 開設延長3,190m 利用区域 1,661ha</p> <p>○森林管理道整備 5路線 坂本線 車道幅員3.0m 開設延長 480m 利用区域 160ha 船河内2号線 車道幅員3.0m 開設延長 1,260m 利用区域 134ha 船河内3号線 車道幅員3.0m 開設延長 932m 利用区域 175ha 表口線 車道幅員3.0m 開設延長 1,257m 利用区域 280ha 宗田線 車道幅員3.0m 改良延長 120m 利用区域 71ha</p> <p>○集落林道整備 1路線 小平山線 車道幅員3.0m 舗装延長880m 利用区域 152ha</p> <p>○排水施設整備 2地区 小平山地区 188m 上爪地区 182m</p> <p>○林業集落内健康増進広場整備 1地区 黒沢地区 5,000m²</p> <p>○林業施設用地整備 1地区 田原地区 21,000m²</p> <p>総事業費 1,908,800千円 （当初総事業費 1,408,000千円）</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平25年度時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである。 当初「青山・大越地区」において林道や林業施設の整備、森林整備等を行う計画であったが、平成17年度に計画区域を見直し、「田原地区」の林業施設用地整備等を追加したため、総費用が増加した。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">総便益 (B)</td> <td style="width: 30%;">3,625,136千円</td> <td style="width: 30%;">(事業採択時総便益 3,201,082千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>2,803,085千円</td> <td>(事業採択時総費用 1,901,852千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td>1.29</td> <td>(事業採択時分析結果 1.68)</td> </tr> </table>	総便益 (B)	3,625,136千円	(事業採択時総便益 3,201,082千円)	総費用 (C)	2,803,085千円	(事業採択時総費用 1,901,852千円)	分析結果 (B/C)	1.29	(事業採択時分析結果 1.68)
総便益 (B)	3,625,136千円	(事業採択時総便益 3,201,082千円)								
総費用 (C)	2,803,085千円	(事業採択時総費用 1,901,852千円)								
分析結果 (B/C)	1.29	(事業採択時分析結果 1.68)								

② 事業効果の発現状況	<p>森林基幹道及び森林管理道の開設により、施業地までの到達時間の短縮と作業コストの低減が図られた。集落林道整備により林道舗装を実施した結果、林業用車両の走行性が向上するとともに利用者の安全、維持管理の軽減に寄与している。 林道開設により、利用区域内の間伐・保育作業及び適期を迎えた主伐がなされ、主伐後は植栽が行われるなど計画的な森林整備が行われている。</p>
-------------	---

③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>当事業により開設された林道は、佐伯市が定めた林道維持管理規程に基づき管理され、草刈や側溝掃除等が行われており、維持管理状況はおおむね良好である。 森林整備箇所は森林所有者等により適切に管理されている。</p>
④ 事業実施による環境の変化	<p>林道整備による森林施業地までの到達時間短縮等に伴い、林業従事者の労働条件の改善が図られ間伐等の森林整備が促進された。 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
⑤ 社会経済情勢の変化	<p>平成17年3月に旧佐伯市を含む8市町村が合併し、面積が九州最大となる新たな佐伯市となり、林業推進する体制が整った。 林道整備等により森林施業地までの到達時間の短縮、高性能林業機械の導入や運搬車両の大型化が可能となったため、作業コストの軽減、労働環境の改善が図られ林業生産性が向上しつつある。</p>
⑥ 今後の課題等	<p>森林施業の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林所有者に対する森林施業実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の意見：林道が整備されたことにより、今後は支線となる作業道等の路網整備を推進し、林業生産活動の活性化を図る。(大分県) 林道整備により森林所有者の森林整備に対する意欲が向上した。(佐伯市) 効率的な木材の伐出・運搬が行えるようになった。(佐伯広域森林組合)
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 森林整備を効率的に行う基盤となる路網整備により利便性向上したことにより適正に森林整備が行われ、水源かん養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与するなど、当事業の効果が発揮されている。 今後も森林の整備及び基盤となる路網の整備が一体的計画的に推進することから事業の必要性が認められる。 ・ 効率性 森林整備及び林道の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減に努め総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備を実施するコストも縮減されることから、今後も事業効果の発現が見込まれる。 林道が災害時の迂回路としても機能していること。 森林整備等も促進されていることから事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

事業名：森林居住環境整備事業

都道府県名：大分県

地域(地区)名：アオヤマ オオコエ タバル青山・大越・田原

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	148,674	
	木材利用増進便益	204,734	
	木材生産確保・増進便益	154,957	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	3,819	
	森林管理等経費縮減便益	5,349	
	森林整備促進便益	3,009,883	
一般交通便益	走行時間短縮便益	14,617	
	走行経費減少便益	703	
森林の総合利用便益	フォレストアメニティ施設利用便益	27,571	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	11,725	
維持管理費縮減便益		938	
山村環境整備便益	土地創出便益	31,246	
	生活安全確保便益	10,920	
総 便 益 (B)		3,625,136	
総 費 用 (C)		2,803,085	
費用便益比	$B \div C = \frac{3,625,136}{2,803,085} = 1.29$		

全体位置図

森林居住環境整備事業
青山・大越・田原地区

